

ComProcアーキテクチャ 解説

2023年6月11日 第1回 自作CPUを語る会
サイボウズ・ラボ @uchan_nos

自己紹介

- 内田公太 @uchan_nos
- サイボウズ・ラボ株式会社
 - コンピュータ技術エバンジェリスト
 - 教育用OS・言語処理系・CPUの研究開発



●代表著書「ゼロからのOS自作入門」

●最近の寄稿記事

- Software Design 2023年4月号 第1特集 第2章
コンピュータが計算できる理由

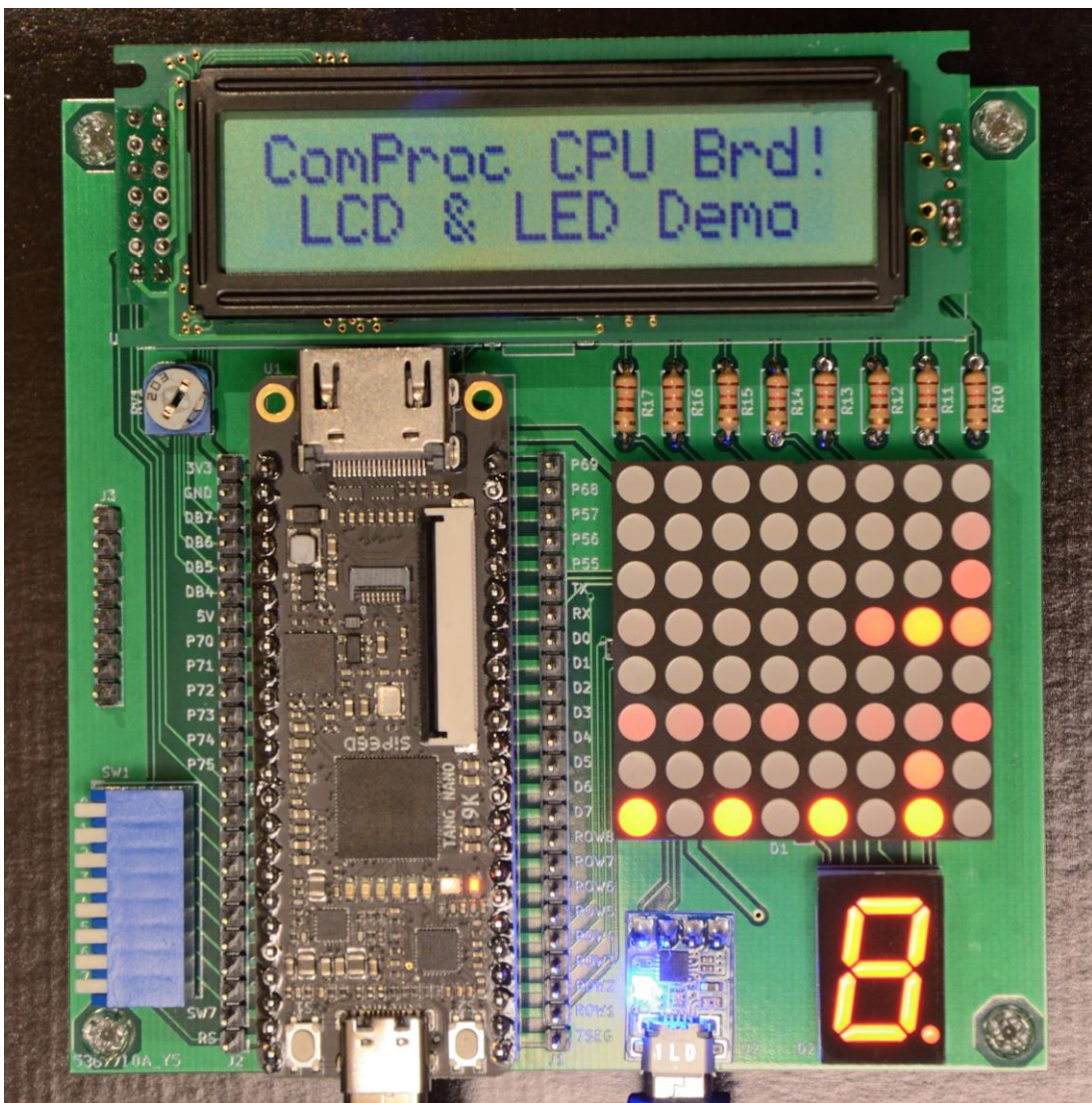
●最近の同人誌

- コンパイラとCPUどっちも作ってみた



ComProcプロジェクトとは

- ComProc=Compiler+Processor
- CPUとコンパイラを自作する、uchan主導のプロジェクト
 - CPUとコンパイラを作るプロジェクトは珍しくない
 - ComProcプロジェクトは**CPUとコンパイラを同時並行に進化**させる点で、他のプロジェクトとは一線を画す
- ComProcプロジェクトの構成要素
 - CPU回路：Verilogで記述されたCPUの実装
 - ComProc CPUボード：FPGAボードを中核とした基板
 - コンパイラ実装：ComProcプロジェクトのもう一つの主役
 - アセンブラ実装：アセンブリ言語プログラムを受け取って機械語へ変換



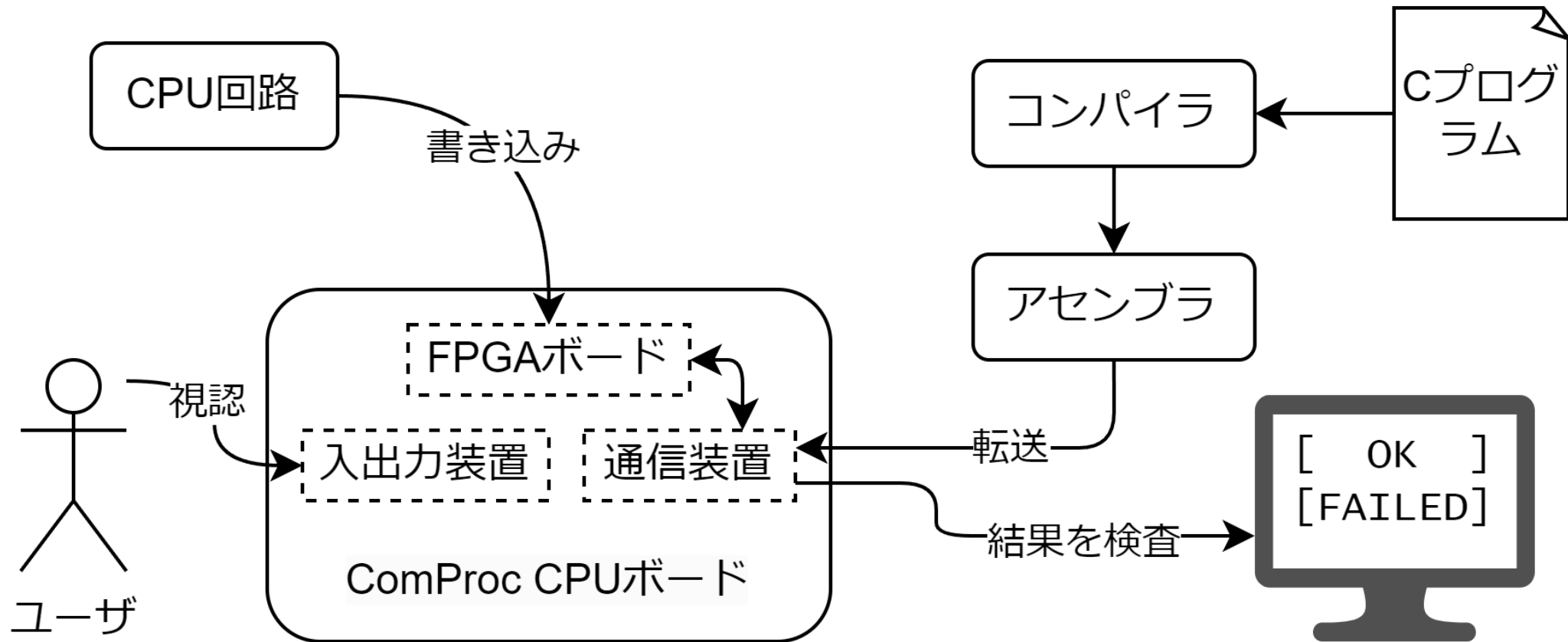
- FPGAボード「Tang Nano 9K」のI/Oを拡張するマザーボード
 - 出力：LED、キャラクタ液晶
 - 入力：DIPスイッチ
 - 入出力：UART
- 部品代（FPGA込み）は約5K円
- FPGAで自作CPU
=超・低レイヤ！

■ と思っていたけど、FPGAは高レイヤ！？

タイムテーブル（仮）

時刻	内容	話者	ライブ配信
13:00 - 13:10	集合		
13:10 - 13:30	<u>リレー</u> でコンピュータを作った話	@kanade_k_1228	○
13:30 - 13:50	<u>NAND</u> によるプロセッサ開発	@cherry_takuan	○
13:50 - 14:10	<u>リレー</u> コンピュータを 作り始めるまで	@Kuon_Aoto	○
14:10 - 14:30	ComProcアーキテクチャ解説	@uchan_nos	○
14:30 - 17:00	交流会・LT会		×

ComProcプロジェクトの全体像



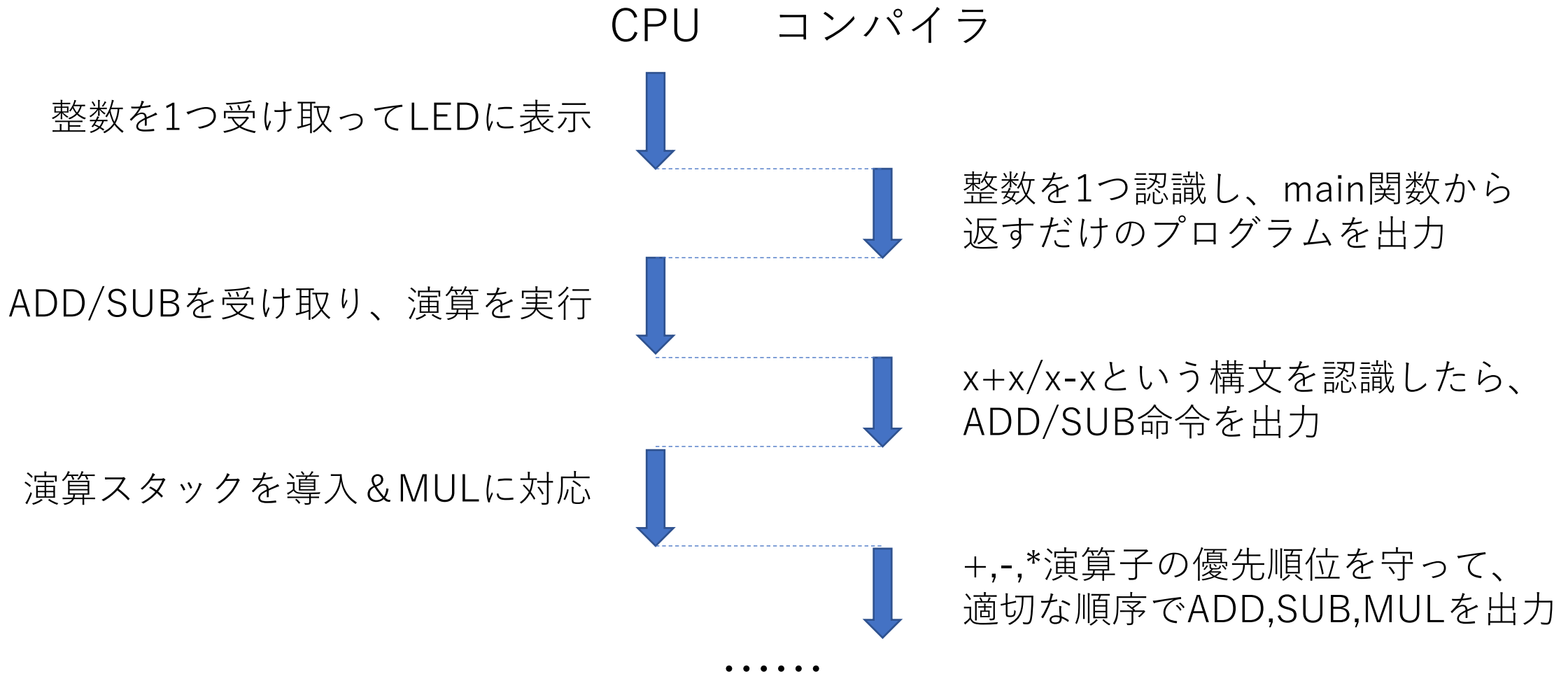
目次

- ComProcプロジェクトの概要
- CPUとコンパイラの同時並行進化とは
- ComProcの命令セット
- CPUのデータパス
- コンパイラへの最適化機能の追加

目次

- ComProcプロジェクトの概要
- CPUとコンパイラの同時並行進化とは
- ComProcの命令セット
- CPUのデータパス
- コンパイラへの最適化機能の追加

CPUとコンパイラの同時並行進化とは



同時並行進化：CPUとコンパイラを、歩調を合わせて進化させていく

同時並行進化の特長

- 余計な命令を実装しなくて済む
 - コンパイラが使う命令だけを追加すればよい
- ずっとエンドツーエンドで動く状態を保てる
 - 「C言語コードをコンパイルしCPUで動く」状態をずっと維持できる
 - モチベーションを維持しやすい！
- CPUとコンパイラの役割分担を調整しやすい
 - CPUにこの仕組みがあるとコンパイラが書きやすい
 - この機能はコンパイラに持たせた方がCPUが楽できる
 - など調整しやすい

CPUとコンパイラの役割分担

■ コンパイラ開発を楽にする例

● CPUに演算スタックを用意

- コンパイラでのレジスタ割り付けを不要に

● 演算スタックと別にコールスタックを用意

- 引数の受け渡しが簡単に
- 演算スタックが整合してなくてもRETが暴走しない

■ CPU開発を楽にする例

● 条件分岐はスタックトップが0か1で判定

- 下位1ビットだけ見る
- コンパイラは必要に応じ、0/非0を0/1に変換する命令を発行する

目次

- ComProcプロジェクトの概要
- CPUとコンパイラの同時並行進化とは
- ComProcの命令セット
- CPUのデータパス
- コンパイラへの最適化機能の追加

命令セット (即値あり命令)

mnemonic	15	87	0	説明
PUSH uimm15	1	uimm15		uimm15 を stack にプッシュ
JMP simm12	0000	simm11	0	pc+simm12 にジャンプ
CALL simm12	0000	simm11	1	コールスタックに pc+2 をプッシュ、pc+simm12 にジャンプ
JZ simm12	0001	simm11	0	stack から値をポップし、0 なら pc+simm12 にジャンプ
JNZ simm12	0001	simm11	1	stack から値をポップし、1 なら pc+simm12 にジャンプ
LD.1 X+simm10	0010xx	simm10		バイトバージョン
ST.1 X+simm10	0011xx	simm10		バイトバージョン
LD X+simm10	0100xx	simm9	0	mem[X+simm10] から読んだ値を stack にプッシュ
ST X+simm10	0100xx	simm9	1	stack からポップした値を mem[X+simm10] に書く
PUSH X+simm10	0101xx	simm10		X+simm10 を stack にプッシュ
				X の選択: 0=0, 1=fp, 2=ip, 3=cstack[0]
ADD FP,simm10	011000	simm10		fp += simm10
	011001xxxxxxxxxxx			予約
	01101xxxxxxxxxxx			予約
	0111xxxxxxxxxxx			即値なし命令 (別表)

命令セット (即値なし命令)

mnemonic	15	87	0	説明
NOP	0111000000000000			stack[0] に ALU-A をロードするので、ALU=00h
POP	0111000001001111			stack をポップ
POP 1	0111000001000000			stack[0] に ALU-B をロードするので、ALU=0fh stack[1] 以降をポップ (stack[0] を保持) stack[0] に ALU-A をロードするので、ALU=00h
INC	0111000000000001			stack[0]++
INC2	0111000000000010			stack[0] += 2
NOT	0111000000000100			stack[0] = ~stack[0]
AND	0111000001010000			stack[0] &= stack[1]
OR	0111000001010001			stack[0] = stack[1]
XOR	0111000001010010			stack[0] ^= stack[1]
SHR	0111000001010100			stack[0] >>= stack[1] (符号なしシフト)
SAR	0111000001010101			stack[0] >>= stack[1] (符号付きシフト)
SHL	0111000001010110			stack[0] <<= stack[1]
JOIN	0111000001010111			stack[0] = (stack[1] << 8)
ADD	0111000001100000			stack[0] += stack[1]
SUB	0111000001100001			stack[0] -= stack[1]
MUL	0111000001100010			stack[0] *= stack[1]
LT	0111000001101000			stack[0] = stack[0] < stack[1]
EQ	0111000001101001			stack[0] = stack[0] == stack[1]
NEQ	0111000001101010			stack[0] = stack[0] != stack[1]
DUP	0111000010000000			stack[0] を stack にプッシュ
DUP 1	0111000010001111			stack[1] を stack にプッシュ
RET	0111100000000000			コールスタックからアドレスをポップし、ジャンプ
CPOP FP	0111100000000010			コールスタックから値をポップし FP へ書く
CPUSH FP	0111100000000011			コールスタックに FP をプッシュ
LDD	0111100000001000			stack からアドレスをポップし、mem[addr] を stack にプッシュ
STA	0111100000001100			stack から値とアドレスをポップしメモリへ書き、アドレスをプッシュ
STD	0111100000001110			stack から値とアドレスをポップしメモリへ書き、値をプッシュ
				stack[1] = data, stack[0] = addr
LDD.1	0111100000001001			byte version
STA.1	0111100000001101			byte version
STD.1	0111100000001111			byte version

即値なし命令のビット構造

15	12	11	10	8	7	6	5	4	3	0	
0111	0	000	Push	Pop		ALU		stack を使う演算系命令			
0111	1	000	0	0	00	Func		その他の即値無し命令			

1+2*3を実行する様子

C言語コード

```
int main() {  
    return 1 + 2 * 3;  
}
```

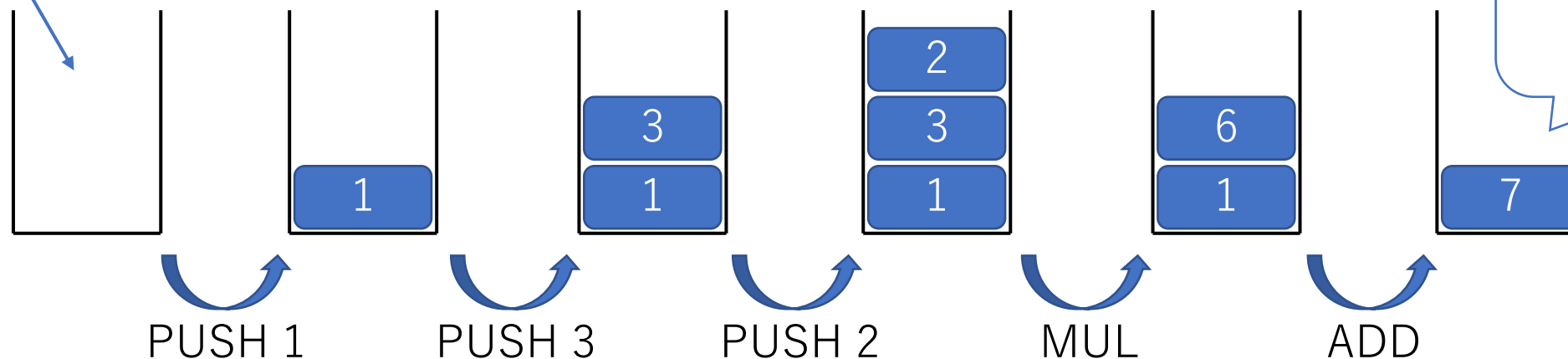
コンパイル
& アセンブル



main:

```
cpush fp  
push 1  
push 3  
push 2  
mul  
add  
cpop fp  
ret
```

演算スタック

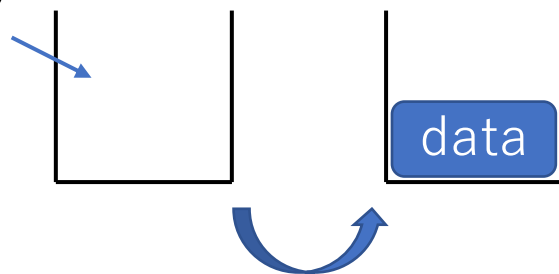


ロード・ストア命令（即値あり）

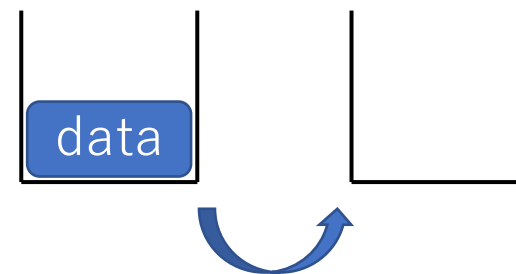
- メモリ読み書きは専用の命令を使う
- LD X+simm10
 - 指定したアドレスから1ワード読み込む（LoaD）
 - 例：LD cstack+2
- ST X+simm10
 - 指定したアドレスにstack[0]を書き込む（STore）
- LD.1、ST.1はバイトバージョン

X	X	ベース値
無表記	0	0
fp	1	FP
ip	2	IP
cstack	3	cstack[0]

演算スタック



LD X+simm10

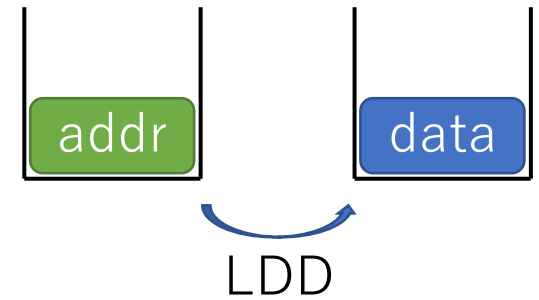


ST X+simm10

ロード・ストア命令（即値なし）

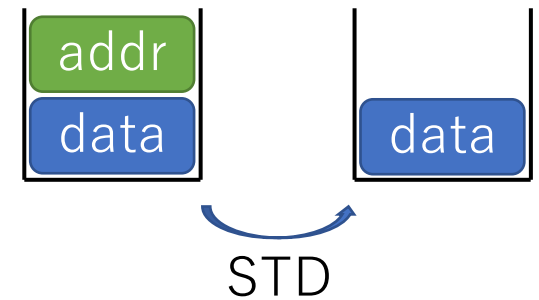
●LDD (LoaD Data)

- stack[0]で指定したアドレスから1ワード読み込む



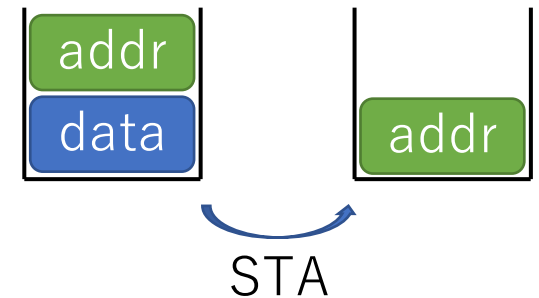
●STD (STore Data)

- stack[0]で指定したアドレスにstack[1]を書き込む
- スタックにはデータを残す



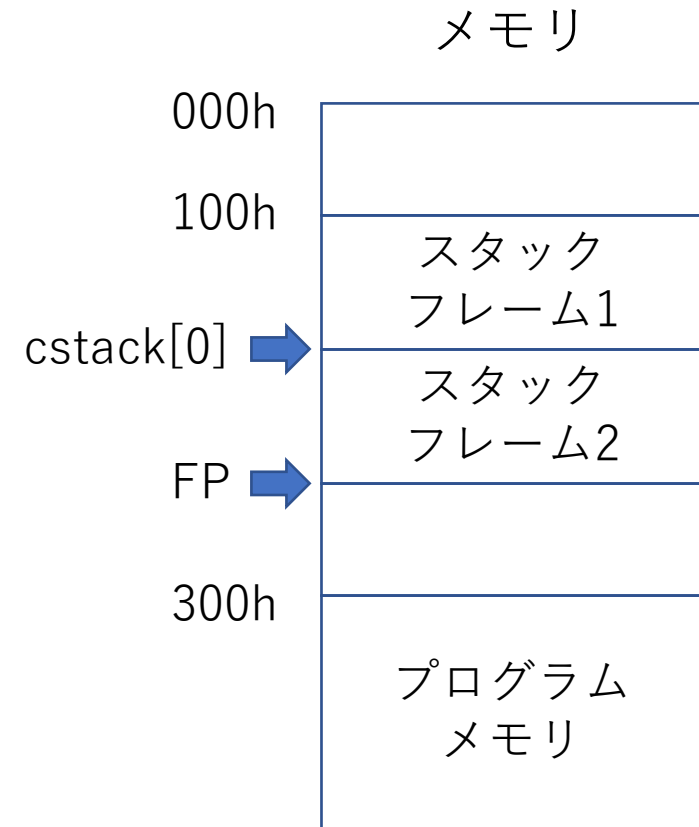
●STA (STore Address)

- stack[0]で指定したアドレスにstack[1]を書き込む
- スタックにはアドレスを残す



スタックフレーム

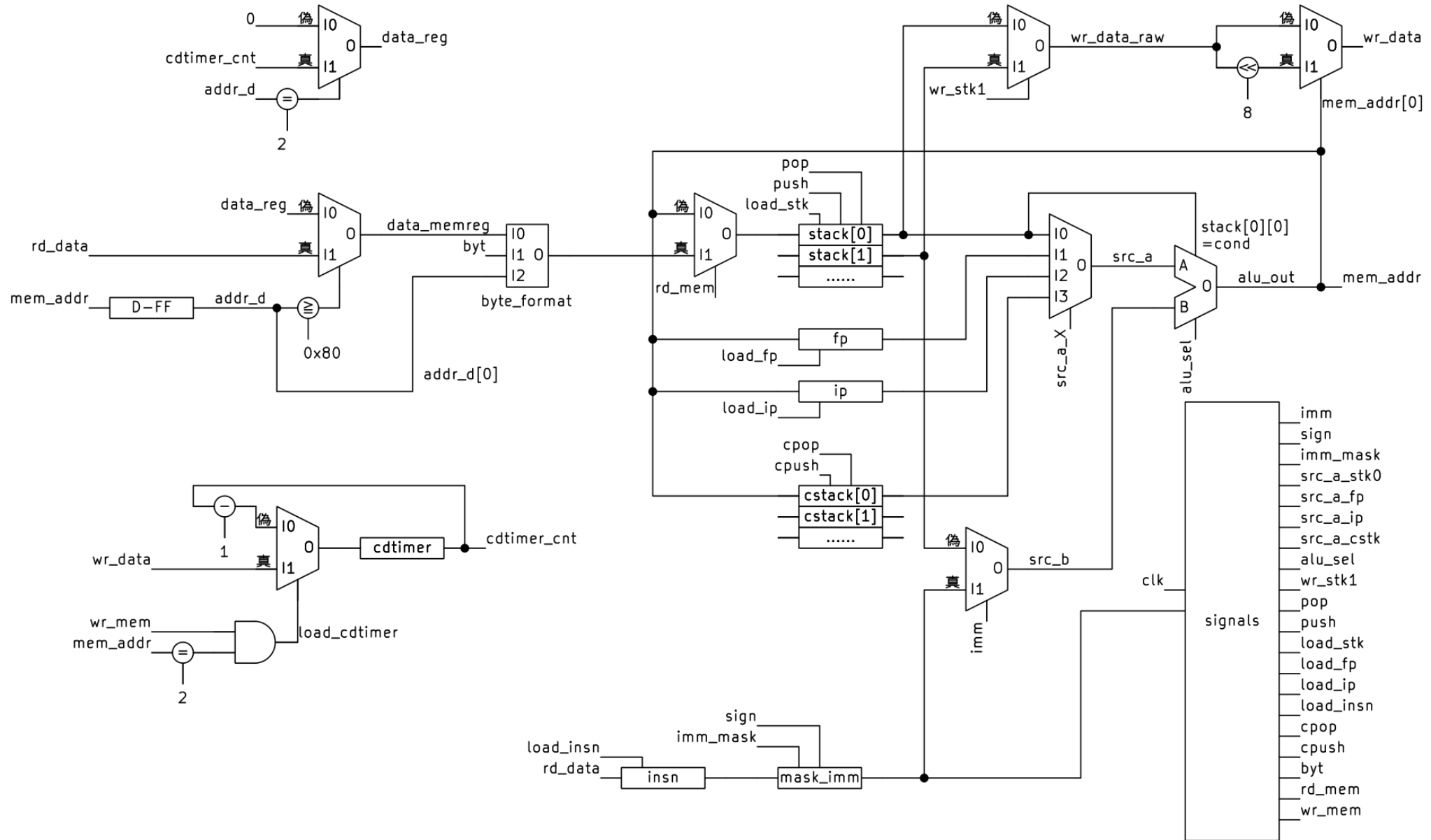
- ローカル変数を格納する領域
- FPがスタックフレーム末尾を指す
- FP操作命令
 - ADD FP, `simm10`でFPを増減
 - CPUSH FP、CPOP FPで保存・復帰
- CALL/RETの戻り先アドレス
 - RISC-V、Arm、x86等はスタックフレームに戻り先アドレスを保存
 - ComProc CPUはPICと同様、専用のコールスタックを使う



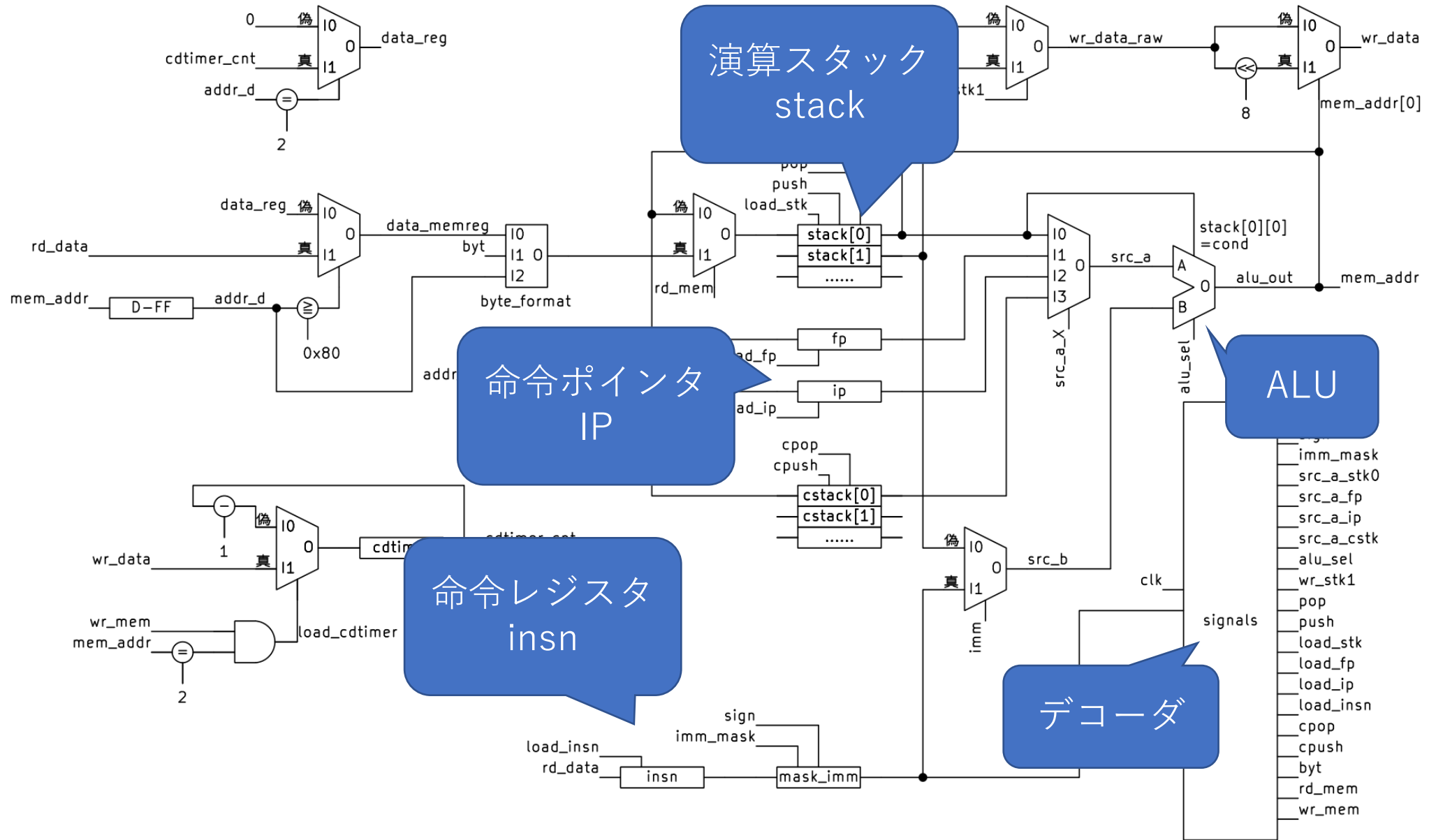
目次

- ComProcプロジェクトの概要
- CPUとコンパイラの同時並行進化とは
- ComProcの命令セット
- CPUのデータパス
- コンパイラへの最適化機能の追加

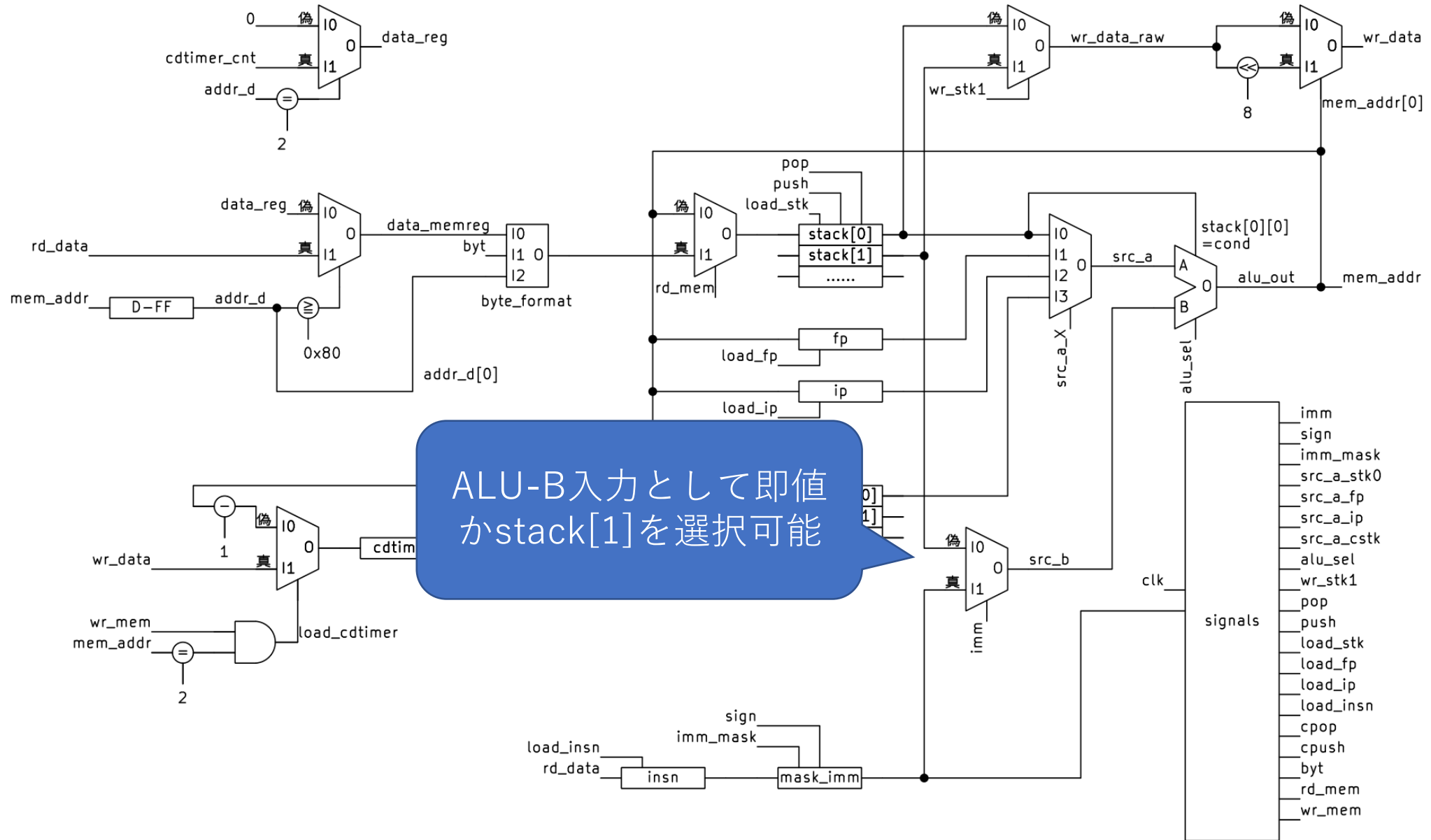
データパス図



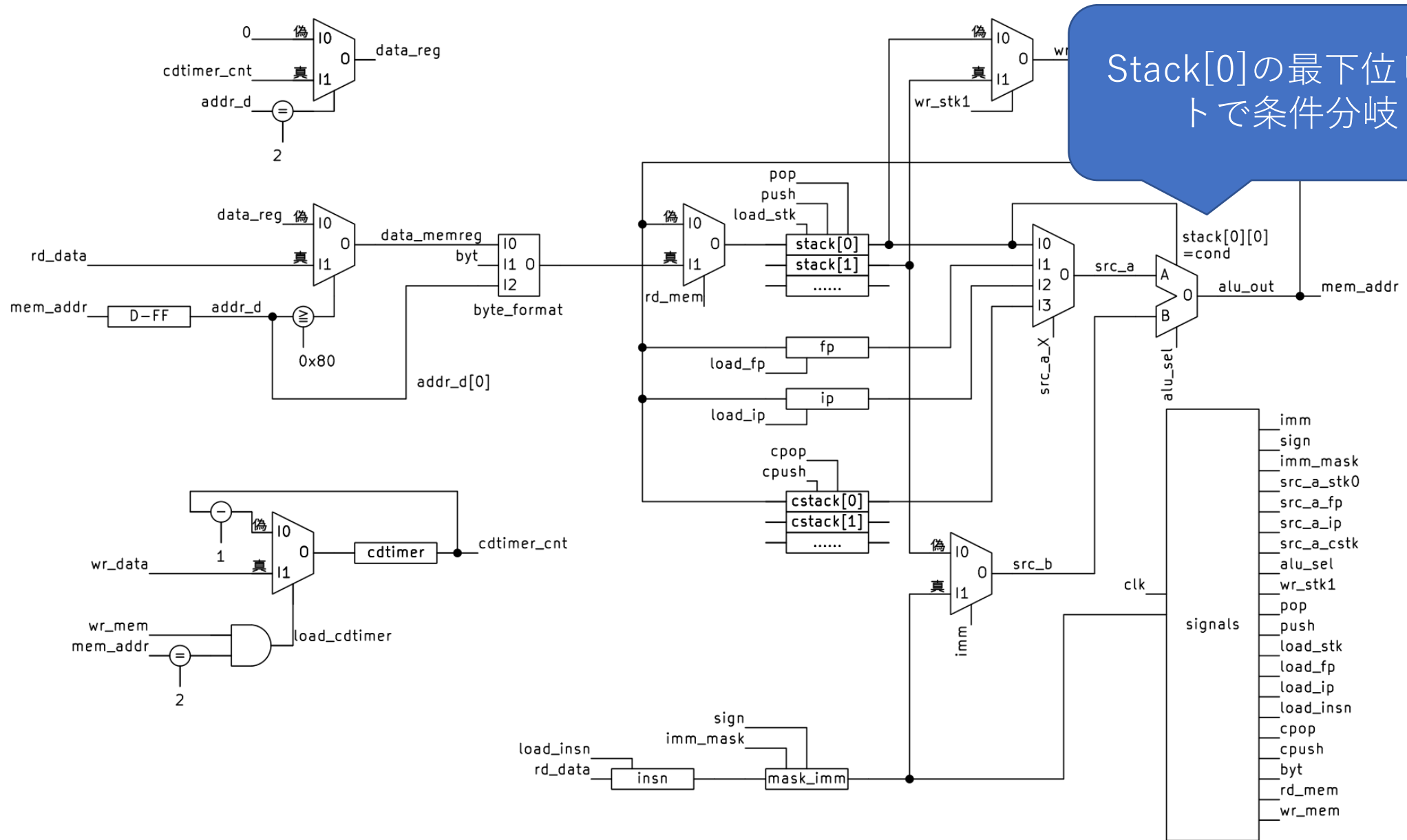
データパス図



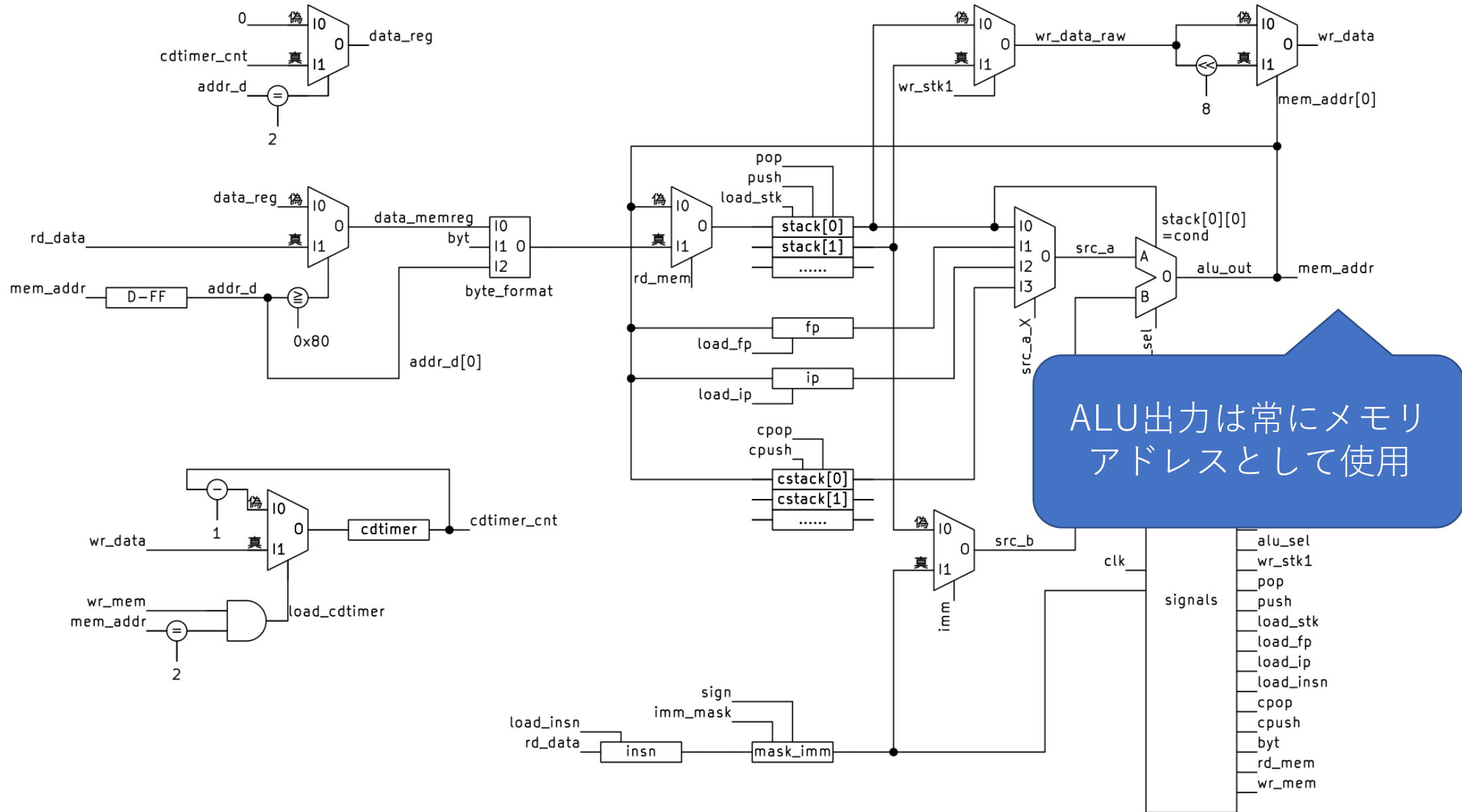
データパス図



データパス図

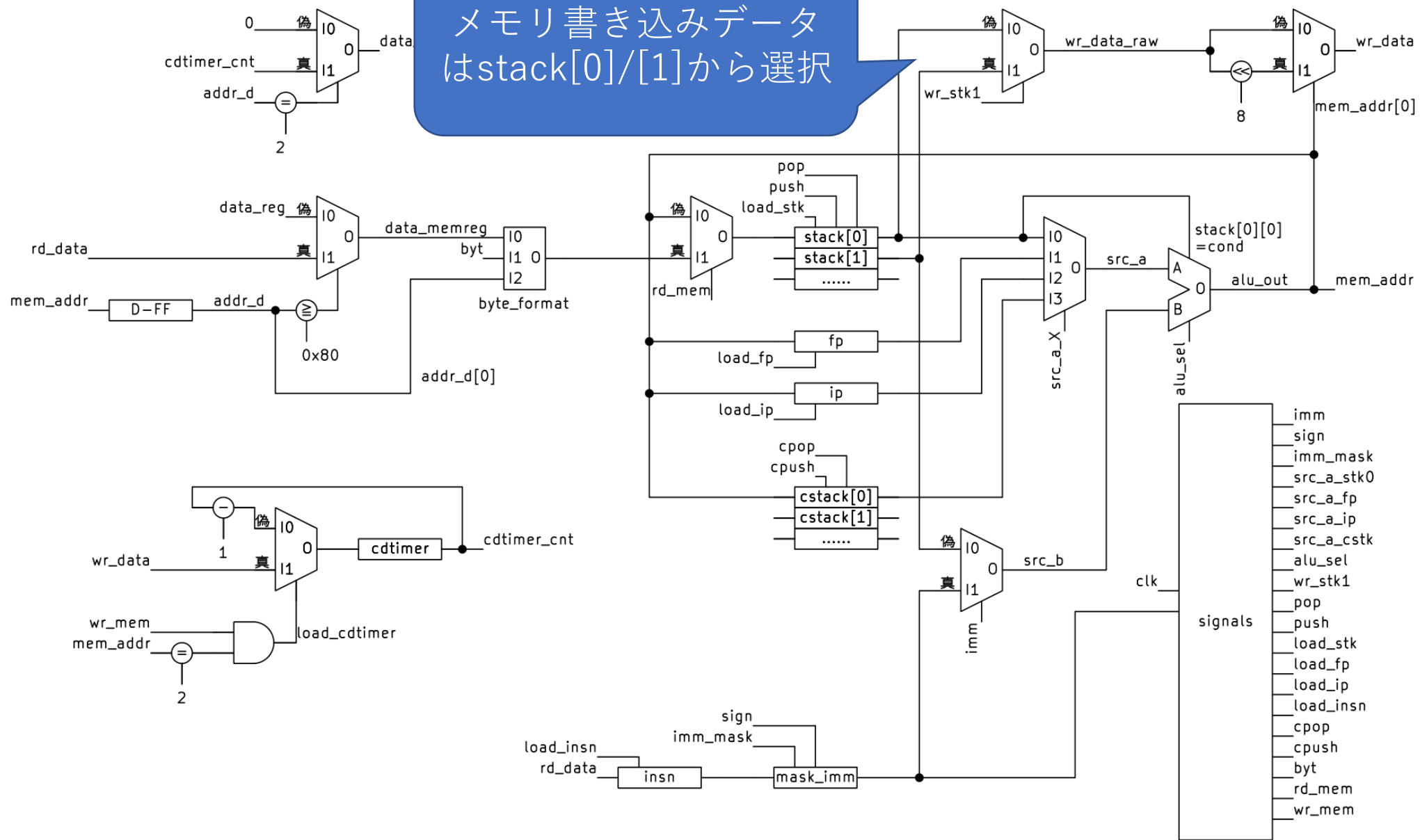


データパス図

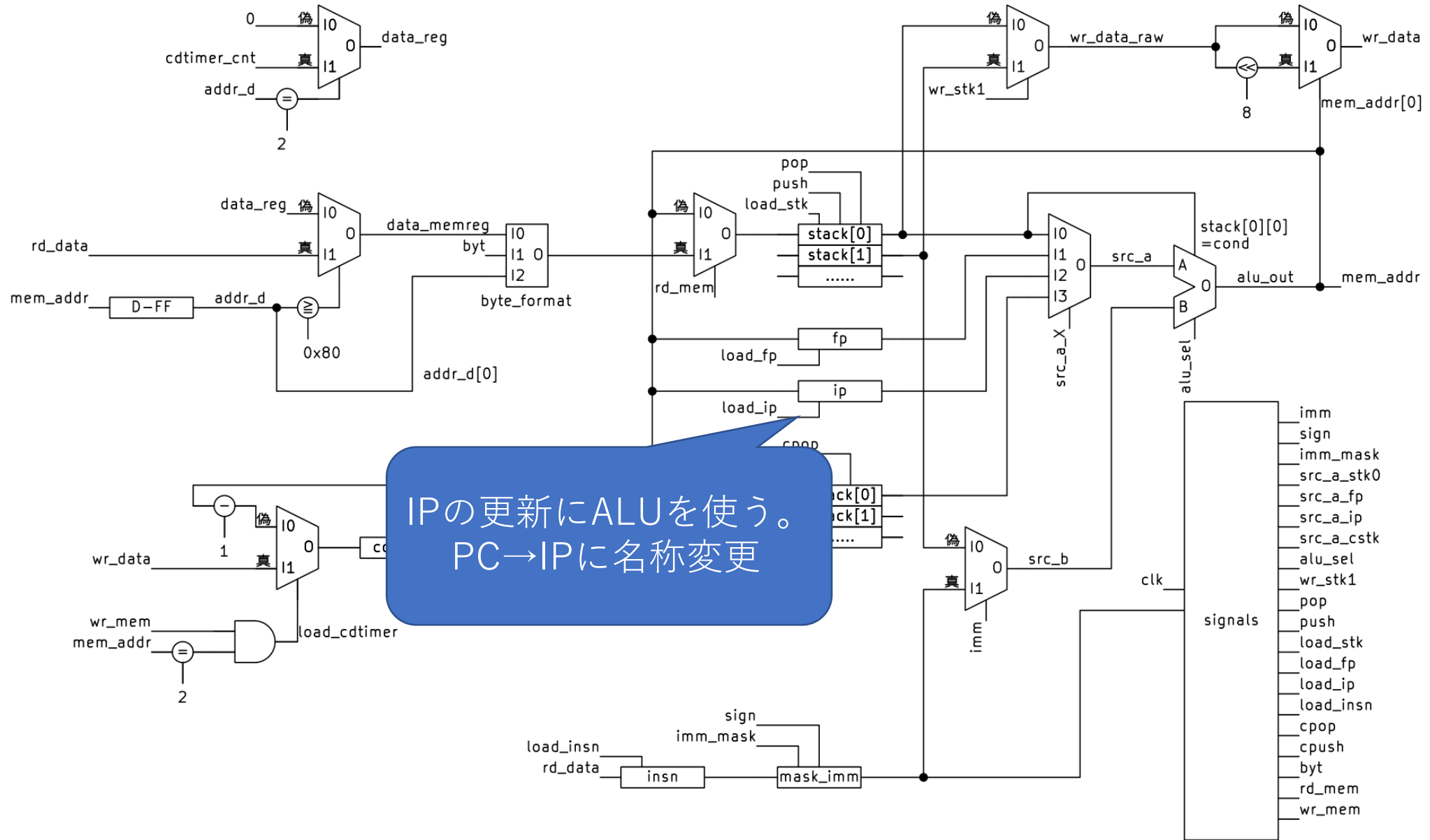


データパス図

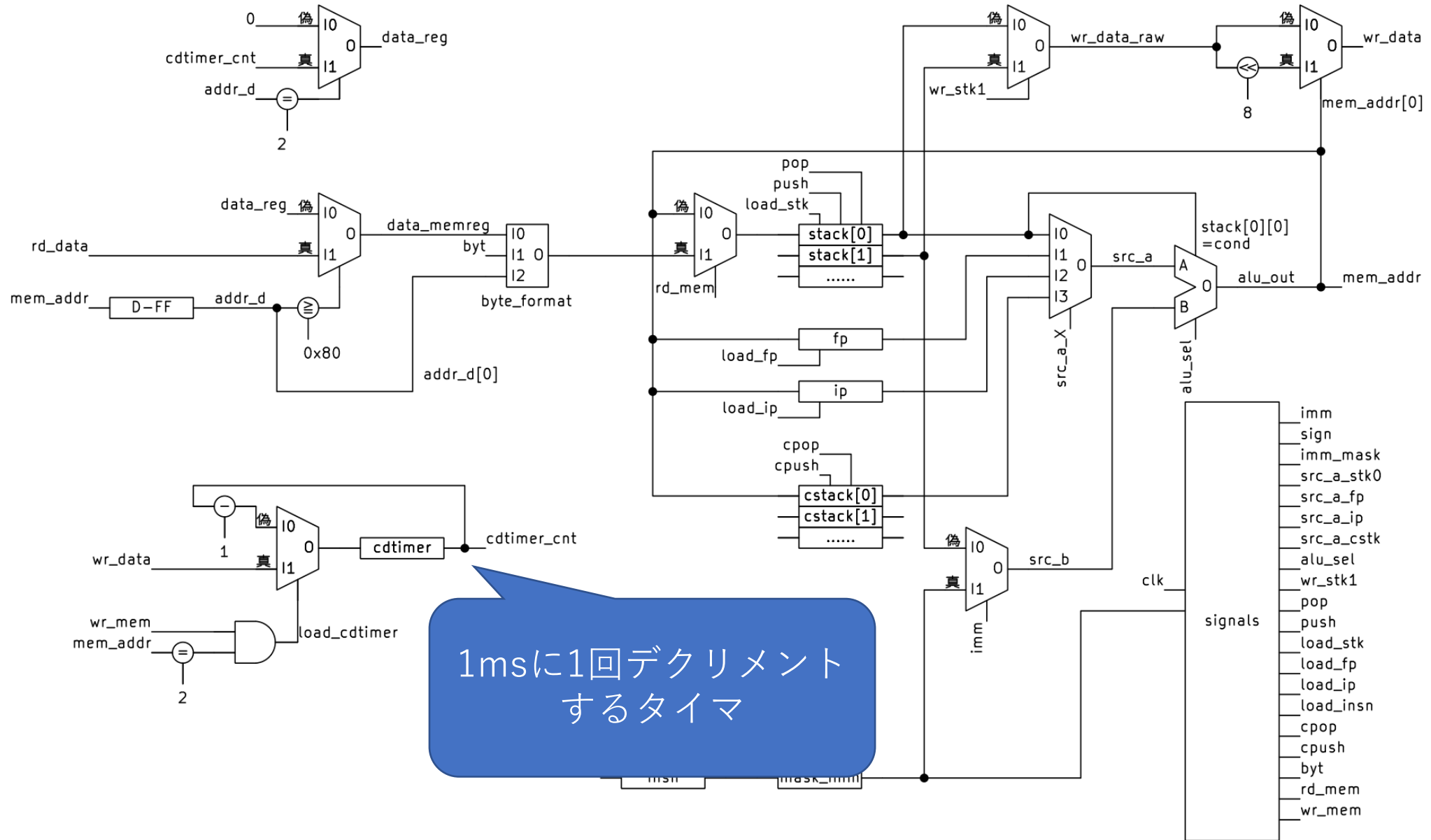
メモリ書き込みデータはstack[0]/[1]から選択



データパス図



データパス図



目次

- ComProcプロジェクトの概要
- CPUとコンパイラの同時並行進化とは
- ComProcの命令セット
- CPUのデータパス
- コンパイラへの最適化機能の追加
 - 時間がないので、興味ある人は展示ブースへどうぞ

コンパイラの実出力を眺める

最適化の話をするには、
ComProcのアセンブリコード
に慣れてもらう必要がある

対象Cコード

```
void delay_ms(int ms) {  
    int *t = 2;  
    *t = ms;  
    while (*t > 0) {}  
}
```

```
delay_ms:  
    cpush fp  
    st cstack+0x0  
    add fp,0x2 ; 引数の領域  
    add fp,0x2 ; t の領域  
    push 2  
    push cstack+0x2  
    sta ; t に 2 を書く  
    pop  
    push cstack+0x0  
    ldd ; ms を読む  
    push cstack+0x2  
    ldd ; t を読む  
    std ; *t に ms を書く  
    pop
```

```
L_0:  
    push cstack+0x2  
    ldd ; t の値を読む  
    ldd ; *t の値を読む  
    push 0  
    lt ; *t > 0  
    push 0  
    neq ; (*t > 0) != 0  
    jz L_1  
    jmp L_0  
L_1:  
    cpop fp  
    ret
```


今回追加した最適化

- 変数定義に出会うたびに`add fp, 0x2`を繰り返すことを止めて、一気にFPを調整する
- `push cstack+N`と`ldd`が連続する部分は`ld cstack+N`に短縮する
 - 同様に`PUSH+STA/STD`も短縮する
- スタックのゴミを掃除するための`pop`を省略する
- これをすべて適用したら、`led.c`のコンパイル結果が67命令→47命令に

最適化の効果

最適化前：25命令

```
delay_ms:
    cpush fp
    st cstack+0x0
    add fp,0x2
    add fp,0x2
    push 2
    push cstack+0x2
    sta
    pop
    push cstack+0x0
    ldd
    push cstack+0x2
    ldd
    std
    pop
```

最適化後：18命令

```
L_0:
    push cstack+0x2
    ldd
    ldd
    push 0
    lt
    push 0
    neq
    jz L_1
    jmp L_0
L_1:
    cpop fp
    ret
```



```
delay_ms:
    cpush fp
    st cstack+0
    add fp,4 ; add fp の削減
    push 2
    st cstack+2 ; push+sta
    ld cstack+0 ; push+ldd
    ld cstack+2 ; push+ldd
    std ; pop の削減
L_1:
    ld cstack+2 ; push+ldd
    ldd
    push 0
    lt
    push 0
    neq
    jz L_2
    jmp L_1
L_2:
    cpop fp
    ret
```

この後やりたい最適化

●push 0; neq の省略

- 0/非0を0/1に変換するために挿入される命令
- 条件ジャンプJZ/JNZがstack[0]の最下位ビットしか見ないから
- LTはもともと0/1を出力する

無駄

```

.....
push 0
lt ; *t > 0
push 0
neq ; (*t > 0) != 0
jz L_1
.....

```

●定数埋め込み

- 変数の値が変わらない場合
- 毎回メモリから読む必要がない
- 定数伝播解析はちょっと面倒

定数2

```

void delay_ms(int ms) {
    int *t = 2;
    *t = ms;
    while (*t > 0) {}
}

```

無駄

push 2
で十分

```

{
    push 2
    st cstack+2
    ld cstack+0
}
{
    ld cstack+2 ; 定数 2
    std
}

```

今後やりたいこと

●CPU

- 割り込み機能
- マイクロマウス製作に必要な周辺回路の設計実装
- GDB (OpenOCD) と接続できるように、JTAGのサポート
<https://www.besttechnology.co.jp/modules/knowledge/?OpenOCD>

●可視化

- CPUが動作する様子のアニメ生成
https://twitter.com/cherry_takuan/status/1647263687307317248?s=20
- MieruCompilerのような可視化
<http://www.sde.cs.titech.ac.jp/~gondow/MieruCompiler/>

●最適化

- コンパイラにさらなる最適化機能を追加